

12月

図書館だより冬休み特集号

令和 3 年 12 月 1 日 桐ヶ丘高等学校図書館

年末年始を迎え、寒さがひとしお厳しくなってきました。コロナも新種が流行っています。うがい、手洗いで乗り越えましょう。
今、図書館では10冊までの特別貸出を実施しています。ふだんは読めない本に挑戦したり、いろいろな本を読み比べてみるのもよいですね。
来年が良い年となるよう心よりお祈り申し上げます。

冬休み貸出



期間
12月10日(金)～12月24日(金)

一人10冊まで

※ 冬休みに借りた本は、1月11日(火)までに返却してください。



冬のお薦め本

『マザー・テレサ愛に生きる』

沖 守弘(作・写真)



マザーテレサはインドの修道女。カルカッタの街は貧しさ病で死にゆく人々であふれていた。マザーは彼らのために、ホスピス「死を待つ人々の家」をつくった。1979年ノーベル平和賞受賞。貧しく弱い人々のために捧げた生涯。

『グリム童話で旅するドイツ・メルヘン街道』

沖島博美(著)



幼い頃に読んだグリム童話の故郷をかわいらしい写真やイラスト、童話に関する情報で紹介。まるで物語から抜け出したような世界を訪ねてみたいになります。

『世界のスープ図鑑』

佐藤 政人(著)



世界各地で食される様々なご当地スープを、レシピ付きで紹介する図鑑です。思いもよらぬ食材を使ったスープ、その地域の伝統を色濃く反映したスープ、催事にふるまわれるスープなど、見ているだけでも楽しくなるスープ図鑑です。

『12ヶ月のパーティスタイル』

フードソムリエ(監修)



クリスマスパーティ、女子会、誕生日会、さまざまなパーティがこれ1冊でOK！季節別、テーマ別レシピ満載！少しのアイデアで華やかなパーティが演出できます。

『ムーミン谷の冬』

トーベ・ヤンソン(著)



真っ白な雪にとざされたムーミン谷。パパとママといっしょに冬眠にはいったのに、どうしたわけか春がこないうちにたった1人眠りからさめてしまったムーミンロール。はじめて知る冬の世界で彼のすばらしい冒険がはじまった……。

『13カ月と13週と13日と満月の夜』

アレックス・シアラー(著)



魔女の騙され、体を奪われた少女カーリー。いつ死んでもおかしくないおばあさんの体されたカーリーは、初めて老いの苦しみを知る。展開がドキドキして面白い！

『長い冬』

ローラ・インガルス(著)



秋が終わると、ローラの家は猛吹雪に閉ざされた。物資輸送の汽車は止まり、食糧、燃料が尽きた。零下40度の寒さの中飢えに苦しむローラ一家。しかし気丈に明るくふるまうローラ。ラストの春のシーンに胸があつくなる。

『雪だるまの雪子ちゃん』

江國 香織【著】/山本 容子【銅版画】(著)



あいらしく、リリしい野生の雪だるまの女の子雪子ちゃんの毎日には生きることのよこびがあふれています。著者が長年あためてきた初めての長編童話にオールカラーの銅版画を添えた宝物のような1冊。

『羊男のクリスマス』

村上春樹 佐々木マキ(著)



12月24日、ドーナツを食ったせいで羊男は呪われた。何だそりゃ？から始まる羊男の不思議な冒険。気の抜けた絵柄と変テコなお話が妙にマッチしてラストは何だか幸せな気分になれる、それこそクリスマスにでも読みたいお話。

『七回死んだ男』

西澤 保彦(著)



「一月一日元日」、祖父は変死した。次の日「一月一日元日」、「僕」は機嫌よく笑う「祖父」の前にいた。おそらくは最初の「時間ループ」ミステリ。摩訶不思議な謎とユーモラスな展開、矛盾なく着地するラスト、と文句なしの逸品です。

『太陽の塔』

森見登美彦(著)



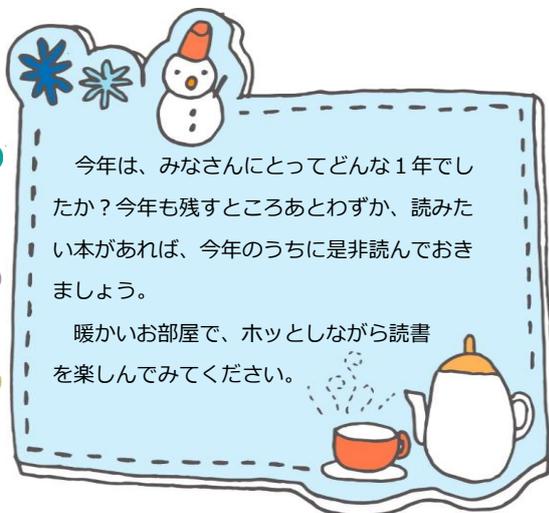
「クリスマス・ファシズム」が吹き荒れる京の都を失恋男が駆け巡る！「有頂天家族」・「夜は短し歩けよ乙女」の森見俊彦のデビュー作。抱腹絶倒なのにちょっとしんみりするのが魅力です

『線は僕を描く』

砥上裕将(著)



両親を事故で失い喪失感の中、偶然水墨画の巨匠と出会う。はじめての水墨画に戸惑いながらも、その世界に魅了され、自らの才能を開花させていく物語。



今年は、みなさんにとってどんな1年でしたか？今年も残すところあとわずか、読みたい本があれば、今年のうちには是非読んでおきましょう。

暖かいお部屋で、ホッとしながら読書を楽しんでみてください。